

[レポート]

# 地域で生きるパフォーマーの話 vol.2

2013年9月20日(金) @ コンセプトスペース F★E★P

語り手：渡辺 あきら

[ジャグリングパフォーマー、NPO 法人関西パフォーマー協会理事長／京都府在住]

## はじめに

全国をみわたしてみれば、自分がパフォーマンスをするだけでなく、自身が暮らしている地域に根ざした独自のスタイルで面白い活動を行っているパフォーマーの方々があちらこちらに見受けられます。このトークシリーズでは、その方々が関東に来るタイミングにお時間をいただき、地元での活動を中心に、考えていること思うことについてのお話を聞いたり、意見交換できる場をつくっています。

語り手の活動に関心のあるさまざまな方々に情報が届くように、またご参加いただけなかった多くの方々にもお話の概要を共有できればと、このシリーズでは当日のお話をもとにレポートを掲載して記録を積み上げていく事にしました。(ただし、その場にいた参加者たちとのライブな出来事とするために、質疑応答でのやりとりについては掲載しておりません。ご了承くださいませ。)

それでは、関西を中心にジャグリングパフォーマーとして個人の活動を行いながら、京都初&発のロングラン公演『ギア -GEAR-』に出演し、さらに NPO 法人 関西パフォーマー協会の立ち上げから運営にも携わっている 渡辺あきら さんのお話をお楽しみください。

Koen 企画 奥村優子



## 渡辺 あきら Akira Watanabe

1976年8月11日生まれ、京都府在住。京都大学理学部出身。在学中にジャグリングに出会い、当時の練習メンバーと共にジャグリングサークル『Juggling Donuts』を設立。現在はパフォーマーとしてイベントやフェスティバル、舞台公演への出演を中心に活動中。ジャグリング講師としての経験も豊富。NPO 法人関西パフォーマー協会代表。

○渡辺 あきら公式サイト

[www.geocities.jp/jugglerakira/](http://www.geocities.jp/jugglerakira/)

○関西パフォーマー協会

[www.npokpa.com/](http://www.npokpa.com/)

## 本人からの 内容紹介

2011年12月、パフォーマーによるパフォーマーのための組織として『NPO法人関西パフォーマー協会』を立ち上げました。協会設立のきっかけから現在の活動状況、今後の展望までをお話しさせていただきます。また、京都の小劇場でロングラン公演という試みを続けているノンバーバルパフォーマンス『ギア -GEAR-』（私も出演中）についてもご紹介できればと思っています。

## ◆ 参考資料

### NPO法人関西パフォーマー協会

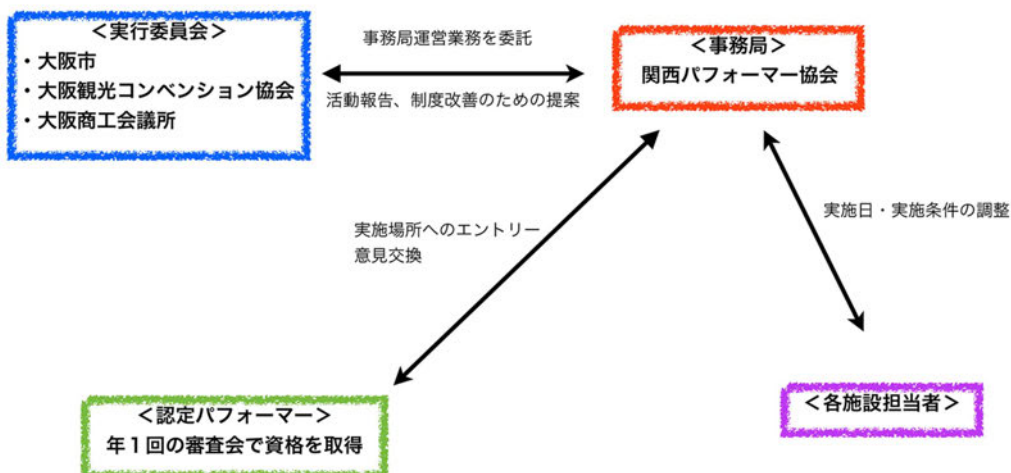
目的および事業	広く一般に対し、ジャグリング、パントマイム、アクロバットなどの技能を用いたパフォーマンスの普及、振興に関する事業を行い、関西を中心とした日本における芸術の発展、及びパフォーマーの社会的地位及びまちのにぎわいの創出・都市魅力の向上に寄与することを目的とする。
この法人は上記の目的を達成するため、次の事業を行う	1. ストリートパフォーマンスに関するライセンス制度の運営 2. パフォーマンスフェスティバル、舞台公演等の開催 3. 地域行事との連携 4. パフォーマンスに関する広報活動

#### <活動実績>

1. ストリートパフォーマンスに関するライセンス制度の運営
  - ・ 京都の梅小路公園でのパフォーマンスの施行（2012年3月、7月）
  - ・ 関西で活動をしているパフォーマーに対して弊協会に関する説明会を開催（2012年10月）
  - ・ 登録パフォーマーの登録（2013年2月）
  - ・ 大阪パフォーマーライセンス推進実行委員会 事務局担当（2013年4月～）
2. 地域行事との連携
  - ・ 夢小路・梅小路フェスタ2ndへの参加（2013年3月）
  - ・ 七条中央サービス会 夜店へパフォーマンスによる参加（2013年7月）
3. パフォーマンスに関する広報活動
  - ・ 山城地域交流フェスティバルへの参加（2012年3月）

### 「大阪パフォーマーライセンス制度」について

大阪パフォーマーライセンス推進実行委員会が平成18年4月より実施している制度。一定の技能レベルを有する「ストリートミュージシャン」と「大道芸パフォーマー」にライセンスを授与し、認定パフォーマーとして、大阪の観光スポットや集客イベントで実演できる機会を提供している。大阪のにぎわいづくりや観光魅力の向上を図るとともに、市民と認定パフォーマーが一体となった楽しい町づくりをすすめる。



## はじめに

本日はお集まりいただきありがとうございます。ジャグリングパフォーマーの渡辺あきらと申します。これから自分が出演している舞台や、活動を行っている関西パフォーマー協会のことを中心に、皆さんと色々な話題を共有できればと思っております。

## 自己紹介

その前に、まずは僕のパフォーマーとしての活動状況についてお話しさせていただきます。僕の元々の出身は大分県なのですが、大学の時に京都に出てきました。そこで在学中にジャグリングに出会ったことをきっかけに、当時の練習メンバーと一緒に『Juggling Donuts』というジャグリングサークルをつくって、大学祭で発表したり、サークルで舞台公演をやったりしていました。

卒業後はそのままパフォーマーになって、現在も京都に住んでいます。パフォーマーの方の多くは東京に住んでいるので「関西を中心にパフォーマンスをしています」と言うと「なんで関西？」とよく言われるんですが、僕は「京都に住む」ということを優先順位の1番にするくらい、京都がとても好きなんです。実際の仕事としては関西の中でも大阪の現場が多いんですが、住むところには京都！というのが自分の中で譲れない条件になっています。

また関西という土地は昔から吉本興行や松竹芸能といった「お笑いの文化」がありまして、上方落語の常設劇場もあつたりします。なのでお客さんの笑いに対する感度が高くてショーを見る



目は厳しいんですが、その一方で何かをやりたい気持ちがある人や、やっている人に対してはとても素直な半応をさせていただきます。たとえば、面白い！と思ったら「ちょっとオーバーじゃないかな…」と思うくらいに反応していただけるという…パフォーマーにとってはやりがいのある土地ですね。

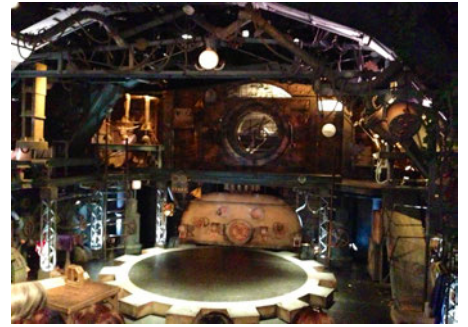
僕は今37歳になりますが、すでに地元よりも京都で暮らしている時間の方が長いです。今後もおそらく京都を中心に活動をしていくんだろうなと思っています。

## 『ギア -GEAR-』とは？

ではこのあたりで、本題の1つである『ギア -GEAR-』のお話をしたいと思います。本日配布した舞台パンフレットにもあるように、僕は京都でロングラン公演中の『ギア -GEAR-』という舞台作品に出演しております。これは元々、2010年から大阪や長崎など、各地でトライアウト公演という試験的な公演を行っていた作品で、2012年4月から京都でロングラン公演を開始しました。現在は、金・土・日と祝日に1日2回公演でずっと上演を継続しております、つい先日通算400回公演を終えたところです。

作品は「廃墟となったおもちゃ工場を舞台に、その中で働くロボロイドと工場で作られた製品の人形＝ドールとの交流」を中心とした物語で、言葉はいっさい使わずに演じられます。お芝居もただ演じるのではなく、さまざまなジャンルのパフォーマンスを間で行ったり、「プロジェクションマッピング」という映像技術を使ったり、観るだけではなくテーマパークのアトラクションを体感するような作品になっています。観ていただけると分かるかと思いますが、かなり舞台美術が大掛かりです。限定100席の非常に小さい劇場で、舞台と最前列のお客さんの距離がとても近く、迫力や身近さも魅力の1つです。

出演者はパフォーマーとしてマイム、マジック、ブレイクダンス、ジャグリングの各ジャンルのパフォーマーが1人ずつ、ヒロイン役としてドールが1名の計5名で行われます。全体で75分の公演なんですが、それぞれのジャンルに3~4人のパフォーマーが所属してまして、メンバーの組み合わせがその都度変わるので、人の組み



合わせのパターンを計算すると何と432通りになるそうです(笑)。ですので、内容は同じなんですけれど人によってすごく雰囲気が変わります。僕を含めてジャグラーは全部で3人居ますが、特にジャグリングはそれぞれ人によって違った道具を使ってショーをやるので、違いが明確かなと思います。そういうところもあるので、リピーターの方は「他のキャストのときはどうなるのかな」と楽しんでくださっています。

あとは『ギア -GEAR-』は全員関西在住のメンバーでやっておりまして、キャストもスタッフも含めて、どこか東京から呼んで…というかたちではありません。そうしたこともあって「皆で作っているんだ」という一体感がすごく強いです。また、作品に明確な演出家が居る訳でもないので、キャストでも舞台スタッフでも制作スタッフでも、意見を言いたければ言ってやってみる。という良い舞台チームになっています。

## 専用劇場 ARTCOMPLEX 1928

そしてこの公演は会場も変わったところでやっています。京都市の一番の繁華街・河原町三条の近くにARTCOMPLEX 1928というクラシックなビルがあって、1階と2階にはカフェやギャラリーが入っているんですが、実は今は3階が『ギア -GEAR-』専用劇場になっております。

ここは昭和3年(1928年)に毎日新聞社のビルとして建てられたもので、90年近くほぼ当時のまま残っている、京都市の登録文化財にも指定されている歴史的建造物です。京都でも特にこの界隈がそうなんですが、昔からの建物や町家など



を改装してお店やアートスペースにしているところがけっこう多いので、歩いているだけでも京都らしい街並を楽しむことができます。

『ギア -GEAR-』の専用劇場になる前までは、この場所は貸し劇場やアートスペースとして運営されていました。最初に少しお話した、僕が立ち上げた京都大学のジャグリングサークル『Juggling Donuts』では毎年舞台公演を行っているのですが、2000年に第1回公演をおこなった場所がたまたまこの劇場でした。偶然ではあるんですけど、それもご縁だなあと思いながら、今も同じ舞台に立っております。

### 「京都でロングラン」という挑戦

この公演は、関西でいろいろな劇場運営をしたりしている小原啓渡さんという方がプロデューサーを務めています。ここでその小原さんの言葉を1つご紹介させていただきます。

「この劇場は小劇場の新しい可能性を探る試みであり、観劇機会と観劇人口を広げるための挑戦です。街や地域に新しい魅力を付加するための提案でもあります。」

ということなのですが、これは京都の地でロングラン公演をなぜ始めたか、に繋がる話なんですね。京都は世界中からたくさん観光客が訪れますが、『ギア -GEAR-』と言う作品は言葉を使わないので外国からきた方にも日本人の方と同じように楽しんでいただけるんです。そして京都は大学が多い街(人口比にすると日本でいちばん大学が多い町らしいんですね。)で大学生が多いので、そういう若者に「劇場で作品を見る」という文化を知ってもらいたいということにも、京都という街がぴったりではないか、と僕も思います。

### ロングランのメリット/デメリット

ここで『ギア -GEAR-』の特徴の1つであるロングラン公演について詳しくお話させていただきます。通常は舞台作品というのは1回きりか数日間が終わってしまうものが多いですが、『ギア -GEAR-』は現在1年半ほどロングラン公演を続けています。(正確に言うと、1~3ヵ月おきに制作側が「継続していけるか」について状況を検討した上で「3ヵ月延長します」「1ヵ月延長します」という話があって、ちょっとずつ

続けていった“ロングラン”です。)そんな日本では珍しいロングラン公演を行う中で、見えてきたメリットとデメリットが沢山あるのですが、まずは主なメリットからお伝えさせていただきます。

『ギア -GEAR-』は基本的には週6公演×4週間=1ヶ月で24公演以上を上演していますが、各公演終了ごとに全メンバーを集めてアンケートを読みながら反省会をしています。常にその場で改善できる内容は改善して、次の公演に活かすことを毎回やっています。1回きりの公演ではできない、こういう柔軟さがロングランの1つの強みなんではないかと思えます。

あとはこの公演はあえて1人の特定の演出家をおかないというスタイルでやっています。プロデューサーによれば「演出家はお客様」ということで、常にお客様やスタッフやキャストの意見を吸い上げて、よりいいものになるのであれば、変なこだわりは捨てて満足度を高めるためにどんどん変えていこう!という試みでやっています。なので毎回ちょっとずつ変わっている訳なんですけど、大きく変更したい箇所などがあるときは3ヶ月おき位に2週間の改訂期間を設けて変更をします。その期間で新しいアイデアを入れたり、ガラッと変えたり、そういう試行錯誤をしながら「Ver.3.0」「Ver.3.2」と本当にちょっとずつ(笑)変わりがながら、そんな風にしてここまでロングランを続けています。

デメリットとしては、いつでも観れるイメージがあることで「観たいな」という興味があるお客様がいた時に「でも、今日じゃなくてもいいかな」と1歩を踏み出すハードルがちょっと高くなってしまいがちなところがあります。ということで、動員という面については毎回満席というのはかなり厳しい状況は続いています。会場が100席の小劇場ということもあってそんなに宣伝費をかけられる訳ではないので、現在はリピーターとロコミにかなり頼っている状況もあります。

あとは…完全な完成度を目指すには現在のやり方では難しいのかもしれない、ということが創作面での課題の1つになっています。メンバーが固定ではなく、いろいろなキャストの組み合わせで行っている面白さはこの作品のメリットでもあります。一方で、作品の完成度を上げようとする、たとえば舞台上で何か変更があった時などに、次回の公演

は全員違うメンバーでやることになるので、うまくその状況を全員に伝えられないといけません。つまり、メンバーが1人変わっても全員で同じ舞台を上演するためには、あいまいな決まりごとで創れないんですね。言葉で説明すると難しいんですけど、何というか…固定メンバーでずっと続けていると「絶妙なこの5人の呼吸が合わさった!」みたいな瞬間がだんだん出来てきたりするんですけど『ギア -GEAR-』ではそれは非常に難しいです。これは少し大げさな例えかもしれませんが「どのメンバーでもほぼ及第点というレベルを創り上げることしかできない」というのが問題かなと僕は思っています。

### これから目指すところ

今後の目標としてはまず、期限を区切らずにいつでも京都に来たら『ギア -GEAR-』が観られる「無期限ロングラン」を達成することです。それにはもう少し安定した動員が必要ですが、なんとか1年以内にこれを達成したいという目標でやっております。

あとこれは毎回プロデューサーから言われていることなんですけど「3年後にはブロードウェイ進出」(笑)。最初は冗談かと思っていたんですが、どうやら本気のようなので、とりあえず私もブロードウェイに行くまではこの『ギア -GEAR-』付き合っていくつもりでおります。ご期待ください(笑)。

それと、プロモーション映像が [Youtube \(http://www.youtube.com/user/nonverbalosaka\)](http://www.youtube.com/user/nonverbalosaka) にアップされておりますので、雰囲気だけでも観てみてください。こんな感じでやっておりますので、京都に観光に起こしの際はぜひ遊びに来て下さいね。

「ギア 3.0 complex entertainment」のポスター。中央には大きな「ギア 3.0」のロゴがあり、「complex entertainment」という文字が添えられている。ポスターの周囲には、Mime、Breakin'、Juggling、Magicなどのパフォーマンスの紹介があり、それぞれに写真が添えられている。下部には「忘れ去られた廃工場で、物語の歯車が動き出す。」というキャッチコピーと、「2013年7月 予約受付スタート!」という情報が記載されている。また、「ついに2013年5月3日ギアVer.3.0開幕!!」という大きな赤い文字も目立つ。

## 関西パフォーマー協会の立ち上げ

ここまでが『ギア -GEAR-』についてでしたが、続いて話題の後半に行きたいと思います。僕はパフォーマー個人としての活動とは別に、関西パフォーマー協会というNPO法人の代表も務めておりまして、それについてちょっとお話をしたいと思います。

まず成り立ちですが、関西でパフォーマーとして活動中のこのような6人を中心として、2011年の11月にこの組織を立ち上げました。ちなみに右端に居るのが僕です(笑)。



これはミーティング中の写真ですが、全員普段はパフォーマーとして活動しています。このメンバーは普段から練習でよく一緒になったりする6人なのですが、まずは立ち上げのきっかけからご説明させていただきます。

動機の一つは、社会的なパフォーマーの認識に関するものです。現在“パフォーマー”と呼ばれる職業に就いている人は、ほとんどの人が事務所などに所属せずフリー／個人で活動をしています。これは自由に好きなことができる反面、社会的な面からは非常に信用を得にくい立場でもあります。僕も「ふだんは何の仕事されてるんですか？」といまだによく聞かれます(笑)が、パフォーマーが職業で仕事だと認識されている方もまだまだ少ないのが現状です。

そして2つ目は、パフォーマー同士のつながりについてです。最近関西ではパフォーマーの数が増えてきています。僕がパフォーマーになった(大学を卒業した)頃はそこまでパフォーマーも多くなく、関西でのパフォーマー同士のつながりはすごく強いものがあって、関西でパフォーマーをやっている中で知らない人は(基本的に)居ない状況でした。ですが、最近では関西で活動をしているパフォーマーでも名前を聞いても分からない人が居たりと、人数が増えた分だけどうしてもつながりは弱くなっ

てきています。そういうパフォーマー同士がつながれる団体をつくりたいね、という思いがありました。

## 目的と理念

そんな流れの中で、実際に立ち上げるようになった時に、社会的信用の面から特定非営利活動法人＝NPOというかたちをとることになりました。配布資料に記載したその定款、協会の目的及び事業を読んでみます。

「広く一般に対し、ジャグリング、パントマイム、アクロバットなどの技能を用いたパフォーマンスの普及、振興に関する事業を行い、関西を中心とした日本における芸術の発展、及びパフォーマーの社会的地位及び街のにぎわいの創出、都市魅力の向上に寄与することを目的とする」

だいぶ硬い文章ですが、これもNPOとして行政に認可してもらうための言い回しやお約束の文言というのがあるんですね。実際に役所の方とも相談しながら、僕たちのやっつけようとするものをこういうかたちにしていきました。

協会の理念を分かりやすく言うと「パフォーマーが関西で活動しやすい環境を整えていく」というところが大事な目的です。そのために地域や行政と連携して、パフォーマンスを実施できる機会や場所を作っていくこと、パフォーマーに向けた活動も行うことで、パフォーマーと言う職業やその人自身の信頼度や認知度を上げていくこと。そうしたことを含めて、パフォーマーが活動していける環境を作っていくことを一番に考えています。ですので、法人化に向けての手続きや準備は非常にややこしくて大変だったんですが、たとえばNPO法人になると行政との交渉においても信用が格段に違います。個人で話しにいても相手にされないようなところでも、まずは話を聞いてくれますし、立ち上げただけで先方から幾つか案件をいただいたりもしています。さらにNPO法人同士や地域とのつながりが強いので、そういう団体の集まりに参加して地域に関する情報交換を行いやすい等、メリットは大きいんです。

立ち上げは本当に大変でしたし、年度末の報告書のような事務的には煩わしい面も多いですが…それを差し引いてもNPO法人で良かった、非常に大きな成功だったかなあと考えております。

## 活動場所を増やしていくための活動

それでは、ここからは今までの活動をご紹介していきます。

1つ目は、パフォーマンスを日常的に実施できるようにするための活動のひとつとして、「ストリートパフォーマンスに関するライセンス制度の運営」を目標にしています。

パフォーマンスに関わっていない方には伝わりにくいのですが、パフォーマンスや大道芸に関するライセンス制度というものがあり、日本国内でも実施されています。これは大体、審査を受けて合格したパフォーマーが決められた場所でパフォーマンスを行える許可を与えられ、パフォーマーはそこでショーをして、(多くの場合は)対価として投げ銭をもらう。という制度になっています。

行政主導で行っているところも幾つかありまして、いちばん有名なのは東京都の「ヘブンアーティスト」という制度ですね。上野公園とかで大道芸をやっているのはそのライセンスを取得したパフォーマーなんです。今日のお客さんにもライセンスを持っている方が居ますし、私も一時期は持っていたんですが…現在はちょっと失効しております(笑)

大阪市でも「大阪パフォーマーライセンス」というものが、ヘブンアーティストから少し遅れて実施されました。こうしてライセンス制度が増えていったことでパフォーマーとしては活動しやすくなっている面もあるのですが、それに比べても現在、たとえば関西の状況で言うとパフォーマーの数に対して活動できる場所は圧倒的に少ないというのが現状です。

そうした背景があって、協会としてはまず「新しくパフォーマンスをできる場所を増やしていこう」となりまして、すでにある大阪市のライセンス制度を参考にしながら「京都でそういうことができる場所は無いだろうか」と活動を始めました。

候補の場所としていちばん最初に目を付けたのが、2012年3月にオープンした京都水族館という新しい水族館の前にある、梅小路公園という公園です。京都駅から近い場所なので「今後の京都の新たな観光スポットとして定着するのではないか」ということで、その公園を手始めに交渉を始めました。京都というのは観光地として成熟しているところがありますので、すでに観光地化している嵐山だとか有名なところはなかなか入り

込む余地がないので、これから一緒に盛り上げていこう！という場所がライセンスにはふさわしいんじゃないかなという思いでご相談した結果。実際に場所を借りて、パフォーマンスの試験的な実施を何回か行うことができました。

水族館のお客さんでもにぎわっていますし、パフォーマンスをする環境としてもすごくいい場所なんですけど、今のところ交渉の中で「投げ銭を取る」ことへの理解がなかなか得られていないのが現状です。「投げ銭を取る」ことはパフォーマンス者にとってすごく大事なところでして、ただ「パフォーマンスをやっていいよ」ということでは余り意味が無く投げ銭の有無が活動の基盤になっている。ということをもう少し理解していただけるためのアプローチを現在検討中です。

また、この公園の周辺の商店街が比較的事務所とのつながりも多い場所なので、そういう地元の商店街さん等と連携することも考えています。現在は商店街のイベントにパフォーマンスで協力させていただいたりしながら、顔を知らないだりしているところなんです。

### パフォーマンスのための活動

2つ目は、パフォーマンスに向けた活動をご紹介します。

まずは立ち上げ直後の2012年に、関西で活動しているパフォーマンス者に向けての説明会を開催しました。内容としては、ご挨拶(NPO法人を立ち上げました)とお願ひ(今後こういうことをしていきたいので協力していただきたい)というものでした。その説明会には数十人のパフォーマンス者が集まってくれて、その後に活動理念に賛同していただけるパフォーマンス者に「登録パフォーマンス者」というかたちでの協力をお願いしました。



この写真に写っているのは全員パフォーマンス者なんですけど…普段はわりと地味な感じですね(笑)

そうして賛同して登録してくれたパフォーマンス者が現在30組程います。今はまだ我々の活動場所があるわけではないですし、残念ながらこの登録パフォーマンス者にとってのメリットは殆どないんですが、実績の乏しい協会にとって「30組のパフォーマンス者がいますよ」というのはこれからの活動、交渉に向けて非常に強い武器になってくれます。そういう面で協力してくれるパフォーマンス者が居てくれることがすごく有り難いです。

今後はもちろん、活動場所ができてきたら登録パフォーマンス者に実施の機会を増やしていきたいと思っておりますし、今後は協会の登録パフォーマンス者であることがパフォーマンス者としての信頼であるような組織に我々がなっていくかといけないな。とは思っています。

### 大阪パフォーマンスライセンス

という訳で現在、目に見える実績がなかなかできていないんですが、今年の春からひとつ大きな案件が動きました。2013年4月より、先ほどお伝えした大阪市エリアで行われている「大阪パフォーマンスライセンス制度」の事務局を我々の協会が担当することになりました。

これも経緯がややこしいのですが、このライセンス制度のあらましについて軽くご説明をさせていただきます。

大阪パフォーマンスライセンスは、平成18年から実施されている制度です。主催は実行委員会形式をとっており、大阪市、観光コンベンション協会、商工会議所の3者が中心となって運営をしています。内容は、ストリートパフォーマンス部門とストリートミュージシャン部門があり、それぞれの審査に通った人にライセンスを与え、認定されたパフォーマンス者に大阪の観光地などのスポットで実演できる機会を提供しているというものです。2013年9月現在ではミュージシャンが63組、大道芸が80組、認定パフォーマンス者として登録されており、活動場所としては18カ所が稼働している状況です。ちなみに場所としては、大阪城の天守閣や天王寺動物園などの大阪の観光名所が多いです。

この制度の実施後は、長年にわたってうまく続いてきたのですが、皆さんご存知の大阪市長さんが変わられてから予算的な面でかなり厳しいことになってきました。もともと予算は大阪市から出ていて、実行委員会が実際の運営＝事務局

業務を民間イベント会社に委託するかたちで継続されてきていたのですが、民間への委託すら厳しいレベルまで予算が削られてきておりまして、ちょうどそのころに我々のNPOが立ち上がったという話を聞きつけた大阪市の担当者が「来年、もしかするとライセンス制度が無くなるかもしれないけれど、よかったらパフォーマンス者たちで相談できないか」という経緯で声をかけていただきました。このライセンス制度があることは関西にとって非常に大きなことなので、なんとか無くさないために我々の団体で引き受けることを決断しまして。今年の4月から実際に、このパフォーマンス者協会が事務局の運営を実施しています。

### 事務局業務について

具体的に何をしているかと言いますと、認定パフォーマンス者に対して、実施場所へのエントリー＝予約の手続きをしたり、活動場所や施設との実施日や条件についてのやりとりをしたり、さまざまな意見をいただいたり、そういう事務的な作業が主な業務です。

ここが少しややこしいので補足いたしますが、先ほどご紹介した「登録パフォーマンス者」というのは「我々の協会に登録しているパフォーマンス者」ということであって、「認定パフォーマンス者」というのはこれまでに「大阪パフォーマンスライセンス制度で認定されたパフォーマンス者」のことを指しています。もちろん、両方に参加しているパフォーマンス者もいますが、この2つは全くの別物になります。

お話を戻しますと、現在はあくまでライセンス制度の事務局運営の部分をパフォーマンス者協会が任されている状態で、我々は事務作業をしているだけというかたちです。けれど、パフォーマンス者自身が運営するというので、より自分たちにとって使いやすい制度にしていこうために実行委員会に意見を出したりしていますし、1つ大きく変更をおこなった部分もあります。

これはパフォーマンス者の方にはわかっていただけだと思いますが、ライセンス活動にあたってはパフォーマンス者が行いたい実施場所へのエントリーを行う必要があるのですが、これまではメールやインターネットで事務局に申込み→早い者順に場所を割り振るという流れで決定されていました。しかし我々が運営を委託されてから、協会のメンバーのひとりが作り上げたWEBシステムを導入し

たことにより、この作業が4月から完全に自動化しました。つまり申し込んだ瞬間に「場所が取れた！」「外れた…」というのが一瞬で分かるようになり、もちろん事務局としての負担も少なくなっています。他のライセンス制度、たとえば登録人数と活動場所の多いヘブナーティストなどはすべて電話受付なので、予約を取るのがすごく大変で1日中電話している人もいたという話も聞きます。このシステムは大阪パフォーマーライセンスの特徴を活かしている効率的な部分ではないかなと思っています。

大阪パフォーマーライセンス制度は、徐々に規模や予算が縮小されている流れの中にあります。いずれ大阪市が手放してしまう可能性も踏まえて、我々が自主運営できるようになるために、準備期間としてなんとか頑張っていきたいところです。将来的にこの制度を維持していくことが、まずは大きな目標かなと思っています。実情としては、現在はこの事務局運営だけで手一杯になってしまい…なかなか他の活動に手がついていないところがありますが、とりあえず委託から半年間は問題無く運営を行うことができしております。

## 今後の展望

これだけで終わってしまっただけでは協会の意味が無いので、いくつか具体的に検討している活動もご紹介します。

まずは座学で「協会からパフォーマーに対するの学習会、講習会」のようなものを考えています。先ほども触れましたが、たとえばこれまで自分がパフォーマーになった時に自然に先輩方から引き継がれたマナーやモラルといった当たり前のことが、パフォーマーの数が増えたことで自然には伝わりづらい状況が増えてきています。わかりやすいところでは「ちゃんと挨拶をする」「楽屋の座り位置はこうだ」といった本当に基本的なことなんです(笑) ということすら知らないパフォーマーが増えていきますので、状況を改善していくためには自然に伝わるのを待つのではなく、きちんとしたかたちで伝えていきたいですし、需要はあるんじゃないかなと思います。

あとはパフォーマーの人たちから「きちんと税金を申告するための確定申告の講習会などもやってほしい」という声があり、それはすぐにできることなので実現していこうと思っています。そうしたことがパフォーマー自身や職業への信頼

度を上げていくことに繋がれば、と考えて活動しています。

あとは、ライセンス制度の実施もそうなんですけど、フェスティバルを企画していきたいと考えています。東京はもちろん全国各地で大道芸のフェスティバルは沢山あって、静岡の大道芸ワールドカップのような100万人規模のものもあるのですが、現在の関西ではなぜかほとんどそういうものがないんです。今も続いているのは「天保山ワールド・パフォーマンス・フェスティバル」というものくらいで、ほぼそれしかない状況です。ですので、ぜひフェスティバルを新たに創っていききたいですね。

フェスティバルの創出は、もちろん協会の登録パフォーマーへ出演の機会をつくることであり、地域の方に対して「こういう活動をやっています」というアピールにも役立つと思いますし、それがパフォーマンス活動の認知、ひいてはライセンス活動の実施に繋がっていくことになればと願ってやっています。今実際に検討している候補場所として、京都の岡崎という平安神宮のある地域があります。その辺りは最近少しにぎわいが落ちてしまっているところでして、活性化のためのプロジェクトがいろいろ動いているんですね。そういった動きと一緒に何かをやれたらいいな、と思って案を練っているところです。

そういう感じで少しずつですがパフォーマーに対する環境を整えていくことが、いちばんの目標ではあります。そして、その地域の皆さんが日常的にパフォーマンスを楽しめる環境を広げていくことが、我々の最終的な目標になっていくのかなと思います。



## おわりに

さて、ざっとでしたがひとまずこんな感じでトークを終わりたいと思います。いろいろと皆さんにお話をしてきましたが、最後に僕個人として将来的に何がしたいかをお伝えすると、ずっとパフォーマンスをする立場で居たいと思っています。なので『ギア -GEAR-』がブロードウェイに行く時には僕も行きます(笑)。

実は数年前までジャグリングなどを教える教室をいくつもやっていたんですが、この数年は自分のショーや練習に費やす時間をつくりたいと決心して控え目にしていたりします。環境を作っていくためにNPOの仕事や苦手な事務作業も頑張っていますが、まずはパフォーマーとしてやれるところまでやりたい、いけるところまでいきたい、というのが自分にとってはいちばん大切なことですね。

—最後にひとことお願いします。

京都に来た時はぜひギアに(笑)!

あとは…東京に来る機会はなかなかないんですが、こうやってお話しさせていただく機会があって、少しでも関西の活動を知っていただけたなら良かったと思います。

本当に今日は集まっていたいてありがとうございました!!